

令和6年度 第3回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録

■日 時:令和7年1月14日(火)18時30分～

■会 場:オンライン(Zoom)

1. 報告事項

(1) 業務報告(令和6年9月～11月)について【資料1、2、3】

(2) 業務予定(令和7年1月・2月)について【資料4】

(3) 「軒下ふれあいバザー」について【資料5】

(4) 「知ろう 感じよう 知的障がいのある人たちのこと 障がいのある人はどんな気持ち?」について【資料なし】

○事務局より、(1)～(3)について資料を用い説明を行った。

【委員長】(4)について報告をお願いしたい。

【事務局】「西東京市手をつなぐ親の会キャラバン隊」の協力により知的障がいを知るための体験型のワークショップをおこなった。募集開始後すぐに定員数を超えたため定員数を増やし対応した。知的障がいの方とコミュニケーションをとるのは難しい。疑似体験を通し、とても分かりやすく知的障がいを理解する良い機会になった。聞いた言葉を絵に描いてみるというプログラムでは、例えば「りんごを描いて」と言われれば皆が描けるが「ちゃんと描いて」と言われたら描けないのではないかと。知的障がいのある方へのアプローチの方法で分かりにくいことがあるのだということを知った。不器用さの疑似体験では作業の手順を明確に示さないとどのようなようになるのか。また、一点に気を取られると他が見えなくなってしまうシングルフォーカスの体験、寸劇を通して障がいのある方の家族の立場に立って考えてみるなど知的障がいのある方との関わりについて心掛けてもらいたいことを学ぶことができた。また、障害のある子どものお母さん方から子育て中の苦労や工夫を話してもらった。最後に、自宅から行方不明になり亡くなって発見された事件について、靴も履かず、無賃乗車をして多くの人たちの目に留まり、おかしいと感じた人はいたはずだが誰も声をかけなかった。もし誰かが声をかけていたら助かっていたかもしれない。とても印象的な話だった。このような事が起きないようにキャラバン隊は活動している。参加者からは、知的障がいを知る良いきっかけとなった。いろんな人に聞いて欲しい内容だった。障がい者の家族の話が聞けて良かった。などの感想が寄せられた。

【理事】全国に親の会の支部がありキャラバン隊の活動は浸透してきている。新宿区では月に何回もおこなわれている。西東京市では今回が初めてで、多くの方に受講してもらうことができ大変良かった。参加者も真剣に取り組んでもらい手ごたえを感じることができた。興味深く、やって楽しめる体験型のワークショップなのでいろんなところで開催していきたい。鉄道会社や警察、バスの運転手など実際に生活する中で関わる方はもちろんだが、特に学校関係でおこなっていききたい。プログラムの内容は対象者に合わせ工夫しながらやっていきたい。ぜひ声をかけて欲しい。

【委員長】私も参加したが寸劇を加えたロールプレイのような講座だった。学校関係でおこないたいという話があったが、ボランティアセンターが中間支援組織として仲介出来たら良い。

2. 審議事項

(1) 令和6年度第2回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録(未定稿)について【資料6】

3. 協 議 事 項

(1) 令和7年度予算・事業計画について【資料なし】

【事務局】9月に提示したものを市に挙げている。大きな変更はないと思われる。

(2) 委員選出について【資料7】

【事務局】任期満了となる高齢者の枠では社会福祉法人連絡会の中の法人に声をかけている。児童・子ども関係、小学校も声掛けをお願いしている。東京ボランティア・市民活動センターは任期途中からの参加となり1期目が終了となる。4月からもお願いできると良い。

(3) 夏!体験ボランティアの報告から考える今後の取り組み(意見交換)【資料8】

【事務局】第2回運営委員会で委員から頂いた意見を基に作成したA、Bの2つの案である。Aの夏体験ボランティアの周知については3月～4月の校長会で周知していくのが良いのではないかと意見をいただいた。周知の方法や内容、伝え方についてもアドバイスをいただきながらより良いものにしていきたい。Bの教育課程の中にボランティアを織り込んでいくことについては、これから委員の皆さんと考えて校長会などで提案していきたいと考えている。学校での帯の活動であれば1月～2月の校長会でボランティアセンターができることを示していければ良いのではないかと意見をいただいた。イメージとしてはボランティアセンターができることを一覧にして学校に示していく。学校はあらかじめ授業に織り込んでボランティアセンターに依頼してもらう。そのように出来たら良いと考える。総合的な学習への協力については現在、視覚障がい、盲導犬、聴覚障がいなど障がいに関わることを中心におこなっているが、委員から地域の歴史に詳しい人などを紹介して欲しいという意見も出された。ボランティアセンターに登録しているボランティアは様々な特技を持った方もいる。そのようなボランティアを紹介していくことができると良い。また、学校が取り組む生徒の居場所づくりでもボランティアを紹介してきた。ボランティアセンターは色んなことができるということを提示していきたい。

【委員長】具体的な案が出されている。これまでも学校とのつながりが持てたら良いと話し合われてきた。西東京市が取り組んでいる「西東京ふるさと探究学習」にボランティアセンターが貢献できると良い。今後、学校がどのような地域資源が欲しいのか、どのような要望があるのか委員に聞きたい。

【委員】学校としてやれることは山のようにある。特別支援や学校行事あるいは総合的な学習の時間などお願いすることはたくさんある。例えば展覧会の際、ただ展示したものを保護者や地域の人たちに見てもらっただけではつまらない。動きのある展覧会にしようと考え、1、2年生は自分たちで帽子や服を作り体育館にランウェイを作り音楽や光の中でファッションショーをおこなった。3、4年生はお神輿を作り自分たちの未来の願い事を入れて校内、校庭を練り歩いた。5、6年生は学芸員として作品の説明をおこなった。もしボランティアの力を借りれるとしたら、洋裁やデザインの経験者や洋楽に詳しい人、配線に詳しい人、お神輿を作る際には大工さんや職人さん、地域のお祭りに携わる人などボランティアの力を借りる場面は無限にある。学校はボランティアにどのようなことがお願いできるかわからないのではないかと。ボランティアの力を借りることができるか否かは各学校がどれだけボランティアセンターと結びつくかの差でしかない。ボランティアの方々のご助力を願う事例など一覧があると良い。学習の幅は人々が思う以上に広い。可能性は無限にある。

【委員長】委員がボランティアセンターとつながった実績はあるか。

【委員】本来は特別支援学校に通うのが適切であろうと思われる脳性麻痺の子どもが入学してくるようになった。家庭の事情もあり家族が児童に付き添うこともできない。教育委員会も支援員を付けることが難しい状況だった。ボランティアセンターに相談したところ、海外青年協力隊を予定していたがコロナの影響で行けなくなった学生を紹介してもらった。支援してくれた学生も世界を広げるチャンスになったし児童にとっても丁寧な支援をしてもらい、お互い良い関係ができたと思われる。他にも児童と1対1で関わってもらったことが3回ほどあり感謝している。

【委員長】そのような経験や実績を校長会の中で触れてもらって相談しやすくなるのではないかと。

【委員】最近市内の学校でいじめの問題がクローズアップされている。小・中学校の中で難しい課題があり、そ

れに対する重大事案の問題がある。それに対し、いじめサポーターというかターゲットにされる子どもを遠巻きに見守り、厳しい状況になった時に間に入っていくという役割を担ってくれることは学校として大変ありがたい。いじめに対してこのような支援ができるというアナウンスは必要であるしボランティアにとってもやりがいがあるのではないかと。ニーズはあると思う。

【委員長】何ができるのか、どのような資源があるのかをリストアップすることをボランティアセンターは考えているのか。

【事務局】ボランティアセンターで考えることは出来る。職員の視点だけでは狭いので委員の皆さんと考えていきたい。すぐにも出したいが良いものを出すことを考えると時間をかけたい。

【副委員長】1年かけて検討していく中で良いものを出すために時間をかけるのもわかる。もう一方で、やれることからやってみてその中から見えてくるものもあるのではないかと。時期が来るまでに、どこにどのようなニーズがあるのか集める取り組みをやっていないといけない。今後この会の中でニーズや人材を出し合い、情報を集める時間を確保する必要がある。

【委員長】大学側がボランティアセンターに求めるものは、何ができ、何があるのかが良くわからないということか。

【副委員長】コロナを経て学生の質が変わって来た印象がある。以前は積極的におこなって知ったところから活動が広がるとか、実際に活動を通して自分の中で変容を起こすバイタリティのある学生が多かったが、コロナを経て外に出ることに躊躇したり、失敗を恐れ一歩を踏み出すことができない学生が増えてきている。但し、やる気や思いは抱えている。座学で頭でっかちになるより活動のフィールドを1つ持ち、活動してきたものが学術的にどのような意味があるのかリンクさせた方が学びが深まるのではないかと。コロナ明けからは外に出て4年間活動できるフィールドをつかみ取り、学びを深めてもらうよう働きかけられている。市内の大学なので、ボランティアセンターに行けば活動の紹介や、やりたいことが分からない学生は話を聞いてもらい情報やニーズを提供してもらえするという対話できるチャンネルが増えると良い。自身が持つエネルギーや活用できる強みを活かすことに気づき、開けるきっかけになると良い。

【委員長】12月までにどのようなニーズがあるのか、ボランティアセンターが必要とされるものは何なのかを洗い出していくことが大事ではないかと。3月に退任する委員にも引き続き学校側が求めている人材や情報などを校長会の中で発信してもらいたい。先ほど理事から報告のあったキャラバン隊の活動もつながっていいかと。理事はどのようにして学校に入っていきたいと考えているか。

【理事】総合的な学習の時間に障がいの理解ということ子どもたちに一番伝えたい、思いやりの心を持って誰に対しても心に壁を作らない、ということを学んでほしい。他の支部では中学校よりも小学校でおこなうことが多い。

【委員長】総合的な学習ということだが土曜日に公開している授業の中でおこなっても良いのではないかと。学校と協力して子どもや保護者に見てもらうことも大事ではないかと。

【理事】授業参観の日などを利用し保護者に見てもらうのも良い。

【委員長】小・中学校では3年前からCS(コミュニティスクール)が始まり学校と地域住民、保護者が力を合わせ学校運営に取り組んでいる。先生やPTAは数年で代わってしまうが、地域を良く知る地域コーディネーターを介しニーズを伝えたりボランティアセンターとつながっていくのが良いのではないかと。

【事務局】先ほど委員から展覧会の例を出していただいた。ボランティアセンターの視点と学校の求めているところは必ずしもマッチしていない。ボランティアセンターの職員だけで作っても学校が求めているものとは異なる内容になってしまう。学校の立場で必要とされるものを出してもらい聞くことが大事ではないかと。今まで学校から要望を出されたことが無かった。総合的な学習では障がいについて学ぶ授業があったためマッチしたのだと思う。委員には校長会で話す内容や学校が求めていることなど細かく教えていただきご指導願いたい。

【委員長】委員から学校の話聞くことができたのはボランティアセンターにとって大変良かったのではないかと。これをきっかけに校長会で発信してもらい学校からも多くのニーズを発信してもらえると良い。高齢者施設でも学生にボランティアに来て欲しいと思うところがあるようだがボランティアセンターを利用しているのか。

- 【委員】学生については今回初めて夏ボラで受け入れをした。普段は学生ではないがボランティアセンターに依頼し紹介してもらっている。
- 【委員】皆さんの話を聞きボランティアセンターとしてどのようなことができるのか、何処まで範囲を広げるのか、どれだけ住民の協力を得られるのかが一番問題な気がした。
- 【委員】話は少しそれるが、障がい者施設では以前から委託でおこなっているヘルプカード事業を、今年度は市内の全小学校を回り啓発をおこなってきた。これをきっかけに学校とつながる機会が増えたので、学校からのニーズを幅広く吸い上げられたら良いと感じた。
- 【委員】ヘルプカードの啓発とはどのようなことをおこなっているのか。
- 【委員】元々は市役所がおこなっていた。障がいの啓発活動でヘルプカードの使い道や障がい者が日常生活で困っていること、街中でどのように助けてもらったら良いかなどアンケートを取り発信していた。それを私どもの施設が受託し２ヶ月に１度、市民を対象に４５分間の講座を実施している。精神障がい、知的障がい、身体障がいの方々の特徴について説明し具体的な支援の方法を当事者の方と一緒に伝え、ワークを通し市民の方に考えてもらっている。初級編、中級編とあり、中級編では発達障がいを中心にトーキングエイドなどの機器を使ってもらったり、特別なメガネを使用し視覚障がいの方と同じ体験ができるような内容でおこなっている。
- 【委員長】各分野それぞれがつながりを求めていることが明確になった。ボランティアセンターがニーズを聞き取り話し合い、できることをまとめていって欲しい。

4. そ の 他

(1) 次回 運営委員会日程について

- 日時： ３月 １１日（火） １８：００～
- 会場：

(2) そ の 他

配布資料

- | |
|---|
| 資料 １： 西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告（令和 6 年 9 月～11 月） |
| 資料 ２： ボランティアコーディネート状況月次報告（令和 6 年 9～11 月） |
| 資料 ３： ボランティアコーディネート実績表 |
| 資料 ４： 西東京ボランティア・市民活動センター事業業務予定（令和 7 年 1 月・2 月） |
| 資料 ５： 軒下ふれあいバザーについて 報告 |
| 資料 ６： 令和 6 年度第 2 回運営委員会要点記録(未定稿) |
| 資料 ７： 委員選出について |
| 資料 ８： 夏！体験ボランティアの報告から考える今後の取り組み（意見交換） |
| 参考： ぼらんていあ倶楽部第 128 号（令和 6 年 11 月 15 日発行） |